

新大橋景観検討委員会 【ダイジェスト版】

創刊号

平成 29 年 1 月 20 日

■ 新大橋景観検討委員会 設立

新大橋は、歩行者や自転車の安全性向上と災害時の緊急輸送等を考慮した耐震化などを目的に、大橋川の改修に合わせて架け替えることとしました。

新大橋架け替え事業は、平成 28 年 3 月に都市計画決定し、現在は、地元や関係者への説明、地質調査、測量調査、橋梁予備設計等を行っています。工事の着手は、平成 30 年代前半を目標としています。

新大橋の架け替えの設計にあたっては、技術的な基準のクリアはもとより、大橋川の水辺空間や、歴史風情を大切にしてきた松江の街並み景観との調和に配慮し、また、将来のまちづくりの視点にも立ち、市民の皆様、県民の皆様に末永く愛される橋にしたいと考えています。

そこで、島根県では、「新大橋景観検討委員会」を設置し、有識者の方々の専門的なご意見、市民の皆様のご意見も伺いながら、新大橋の設計を進めていきます。

■ 第 1 回新大橋景観検討委員会

平成 28 年 12 月 26 日（月）に「第 1 回新大橋景観検討委員会」を開催しました。

第 1 回の今回は、現地視察を行った後に、新大橋架け替え事業の概要や新大橋景観検討委員会の進め方を事務局から説明し、設計条件と課題の整理、基本方針づくりに向けて議論していただきました。そのなかで、『シンプルな中にキラッと光る橋を目指す』という方向性が確認されました。

次回は、今後、新大橋の景観検討をするうえでのコンセプトとなる基本方針を議論していただく予定です。

新大橋景観検討委員会 委員名簿

氏名	所属・役職
飯野 公央	島根大学法文学部 准教授
大屋 誠	松江工業高等専門学校 教授
小草 伸春	株式会社小草建築設計事務所 代表取締役
柴田 亮	国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所長
二井 昭佳 (委員長)	国土館大学理工学部 准教授
原田 直樹	島根県松江県土整備事務所長
藤居 由香	島根県立大学短期大学部 准教授
本間 恵美子	しまね文化振興財団 写真文化事業室長
吉田 薫	株式会社共立エンジニア 技師長
渡部 修	株式会社エイテック 中国支社 技師長

敬称略、五十音順

【事務局】島根県土木部都市計画課



お問い合わせ先：新大橋景観検討委員会 事務局

島根県都市計画課計画グループ

Tel:0852-22-5699/Fax:0852-22-6004

※新大橋架け替え等事業に関する HP を開設しました。

http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kikan/matsue_kendo/sinoohasi/

■コンセプトや基本方針づくりに向けた、委員からのご意見を紹介します。



□新大橋整備の目指すこと（資料4より）

- まちと水辺が近く、伸びやかな大橋川の風景を引き立てる橋
- 新大橋から松江大橋における大橋川沿いのエリアが「新たな水辺の拠点」として、散策や滞留を楽しむ市民の居場所になることに貢献できる橋
- 兩岸のまちをつなぎ、歩行者の回遊性を高めることで、松江のまち全体の魅力アップに貢献できる橋。

【新大橋に求められること】（資料4より）

『松江らしさ』や『大橋川の原風景』を活かすため、新大橋には以下のようなことが求められると考えられる

- ① 水平方向にのびやかな「河川景観」との調和
 - ・水辺やまちの風景が主役となる橋であること
 - ・上部に高い構造を出さないシンプルな形状であること
 - ・できるだけ縦断勾配が低く、左右対称に近い橋梁であること
- ② 「ヒューマンスケール」の橋であること
 - ・構造物自体のボリュームが小さく抑えられていること
 - ・周囲の構造物（大橋、低い護岸、戸建ての建物など）と相性が良いこと
- ③ 「歩行者利用」への配慮
 - ・できるだけ縦断勾配が低く、歩行者・自転車が渡りやすいこと
 - ・歩行者が安心して快適に利用できるような空間とすること
- ④ 「人と水、川とまちの近さ」を実現する橋面及び橋詰空間
 - ・橋詰における取り付け高を低く抑え、まち～水辺のスムーズな動線を確保すること
 - ・水辺を身近に感じられるような、水辺に開いた空間とすること

□委員からの主なご意見（詳細は議事要旨を参照）

- ・行政が一体となって松江の魅力アップにつなげられればよい
- ・人が歩き、ゆっくり時間を使うような空間づくり、人の動線、水辺に近づきやすさなどについても検討するとい
- ・大橋川の水辺沿いをどう使うか、どのような姿を目指すのかを展望して橋詰をつくることは大事
- ・橋の上に佇んで大橋川を眺めたいような空間づくりは大事
- ・最近では船の往来が少なく、活気がないのは残念
- ・まちを一体化にする先例となるようなデザインを設計すべき
- ・橋の検討にあたり今ある建物のスケール感を大事にするのは重要
- ・松江大橋から新大橋を眺めた時に大山が見えるので、そのような松江大橋からの眺めも意識するとい
- ・松江の新たな景観となる橋をつくるという視点も必要ではないか
- ・親柱など、新大橋を特徴づけるものがあるとい
- ・昼夜の効果などを考えた照明デザインも検討するとい